

今号のわだい

- 【1面】2016年をどんな年に?
- 【2面】新春インタビュー・堤未果さん  
制服向上委員会・野見山杏里さん
- 【3面】15秋・厚生労働省交渉を実施

# 全厚労ニュース

全国労働組合連合会  
厚生連  
〒110- 東京都台東区入谷  
0013 1-9-5  
TEL 03-3874-3591  
FAX 03-3874-3593  
発行日 毎月20日 定価 30円  
http://www.zenkouro.org/

## 2016年をどんな年に?

### 国民の声が届き届けられる日本に

#### 安保法は「戦争法」

2015年9月19日未

明、国民の過半数が反対し、8割近くが「説明不足」を感じていた「安全保障関連法」が、国会内の多数の横暴で「成立」させられてしまいました。

この安保法は、「戦争法」とも呼ばれています。が、この名称を最初に使った福島みずほさん（社民党）は、なぜこの名称

ではダメなのか自民党事務局に問い合わせたところ、略さないで「戦争につながる法」「戦争に関する法」であれば良いとの答えが返ってきたと言います。つまるところ与党自民党自身も「戦争法」との認識は持っているわけです。

今回成立した「戦争法」は、「集団的自衛権は行使できない」との政府のこれまでの憲法解釈を180度転換させた閣議決

定（2014年7月1日）に基づくもので、立憲主義、民主主義、平和主義を破壊するものです。

安保法制に関しては、多くの憲法学者や学者、全ての弁護士会や歴代の内閣法制局長官や元最高裁判官などの専門家が「違憲」と断じ、学生のSEALDsやママの会、ミドルズ、オールズなど、各階層・各年代が独自に立ち上がって、反対の声を上げてきました。

#### 決して忘れない

これまで平和運動に取り組んできた、市民団体や個人、労働組合も、これまでの運動の垣根を取り払い、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」を結成し、市民との共同の支えになつてきました。その中でも「憲法守り・いかす共同センター」を構成する全労連（全厚労も日本医労連を通して構成団体となっている）は、国会前行動の中心部隊として活躍しています。

安倍首相は、この秋、野党が憲法53条の規定に基づいて臨時国会の開会を要求しても、外遊などを理由に開催しませんでした。「国民に丁寧の説明する」との約束も反故にしています。

与党幹部は「国民はもろちを食べたら（年を越したら）忘れる」とたかをくくっているようです。しかし全国で毎月19日を中心にした安保法制廃止の声が上がりが続いています。12月20日には、この間の安保法制反対の運動を行ってきた諸団体の有志が集まって「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求め市民連合（略称・市民連合）」を結成しました。この市民連合は、「戦争法廃止2000万署名」を共通の基礎に置き、①安全保障関連法の廃止、②立憲主義の回復（14年7月の閣議決定の撤回を含む）、③個人の尊厳を擁

護する政治の実現に向けて野党共闘を呼びかけています。熊本では市民グループら50の団体が集まり、「戦争させない・9条壊すな！くまもとネット」として県内5つの野党と2つの労働団体（連合・県労連）に参院選での統一候補要請を行いました。これから次々と市民レベルの共闘が強まっていくと思われれます。

権が広がります。高校生・大学生も自ら考えて投票するでしょう。私たちも自ら考え、主権者として一票を行使することが求められています。安倍首相は、「憲法改正にも粘り強く取り組みむ」と繰り返し発言しています。自民党改憲草案を是非、ネットなどで調べてみて下さい。「基本的人権は制限」され、「緊急事態宣言」によって内閣総理大臣に全権委任されてしまうことになりま



雨の中、12万人が集まった8月30日の国会前行動

署名」は、これまで戦争法反対の声を上げてきた

今回、総がかり行動実行委員会が提起した「戦争法の廃止を求める統一署名」は、これまで戦争法反対の声を上げてきた

安倍政権は、医療・社会保障費は抑制しながら、340兆円もの内部留保

2016年は、夏の参院選で18歳以上にも選挙

責任なのではないでしょうか。

#### 暮らしを守る

安倍政権は、医療・社会保障費は抑制しながら、340兆円もの内部留保

2016年は、夏の参院選で18歳以上にも選挙

責任なのではないでしょうか。

## TPP批准阻止! 日本の食を守ろう

### 全国食健連・収穫祭に参加

12月9日、都内で全国食健連（国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会）が主催するグリーンウェーブ行動・収穫祭が行われ、全厚労からも厚労省交渉から翌日の看護委員会のため残ったメンバーから10名で収穫祭におじゃましました。

収穫祭ではTPP批准阻止に向けた取り組みを交流し、国産の安全安心の食材を使った祭り寿司やお総菜、日本酒などを美味しく頂きました。



お揃いの「STOP! TPP」Tシャツを着て参加

# 新春インタビュー

## かけがえのない 皆保険制度を守ろう

ジャーナリスト 堤 未果さん



「日本の国民皆保険は世界から称賛される制度」と話す、多くの方が驚かれます。日本の皆保険は憲法25条で定められた生存権を保障し、国が国民の命と健康に責任を持つという理念に基づいてつくられた制度。保険証一枚あればどこ地域でも自由にアクセスができ、3割の自己負担でその日のうちに治療が受けられます。国によって薬の値段も低く抑えられています。この日本の皆保険制度はWHO(世界保健機関)にも絶賛され、世界40カ国が導入した「社会保障モデル」なのです。

### ◆命の沙汰も金次第

アメリカでは医療と保険は社会保障ではなくビジネスです。医療は国民が購入する「民間の商品」であり、

入っている保険の種類によって診療が受けられる病院や治療できる病気の種類も限られています。市場原理に任せて設定された薬代は高騰し、最近ではある製薬会社を買収した若いCEOが一粒1600円のエイズ治療薬をいきなり50倍に値上げして患者たちを絶望させました。高い医療費をカバーする月々の保険料も高額になり、国民の6人に1人が保険に加入できていない。それがアメリカ社会なのです。オバマ大統領は「無保険者をなくす」という公約を掲げ、「オバマケア」と呼ばれる国民皆保険制度を導入しましたが、これには落とし穴がありました。

### ◆骨抜きになる皆保険

日本のTPP報道は関税と農業ばかりに焦点が当てられていますが、TPPの本命は「非関税障壁」の撤廃です。アメリカを中心とするグローバル企業の狙いは、日本の「国民皆保険制度」を存続させたまま、できるだけ大きな利益をあげる事。そのためには、皆保険制度の枠組みを維持して、税金で高い薬を買わせるのが効率的です。だから今回の交渉では薬価や医薬品の知的財産権保護強化に力を入れてきたのです。

### ◆宝物の価値に気づく時

TPPは大筋合意してもう決まった事であるかのようには報道されていますが実はまだ参加国の議会で「承認採決」という最後のプロセスが残っています。すでに最終文書が公開されて以来、アメリカを含む各国で医療従事者や消費者団体、組合などが反対運動を起しています。

アメリカでは医療と保険は社会保障ではなくビジネスです。医療は国民が購入する「民間の商品」であり、民間保険という商品の購入を全国民に義務付けたに過ぎず、制度の仕組みは変わらないまま。保険料と薬代は値上がりし、悲鳴が上がっています。なぜこうなったのか？ アメリカは民主党と共和党の二大政党制ですが、どちらの政党側も最大スポンサーは医療・保険業界。彼らの損になる政策を通すことはできないのです。「オバマケア」の法案を書いたのも、選挙献金と引き換えにオバマ大統領が政権内部に入れた、国内最大保険会社の社員でした。保険料の高騰で、アメリカ国内では社員の保険を維持できない企業が正社員のリストラやパート化を進めています。非正規率の拡大とともに崩れてゆくアメリカの労働組合の姿は、日本の労働組合にとって他人事ではありません。

「非関税障壁」として公定価格が規制緩和されれば、薬価は高騰し、公的保険では支えきれなくなる。アメリカの高い民間医療保険も参入できるというわけです。営利の病院も次々に参入してきて、まともな医療はお金のある人しか受けられないアメリカ型社会になって行くでしょう。

去年は、「制服向上委員会」のメンバーとしてSEALDsやTins SO WLと一緒に安保法案に反対の声を上げました。同じ世代の人と、こういう活動で交流するのは初めてのことでした。

### ◆沖繩での経験

私はいま高校3年生です。



## 新春インタビュー 同世代と「戦争反対」を訴え続ける 制服向上委員会 野見山 杏里さん

国会採決をさせるには、TPPはあまりにもリスクが高い内容です。そういう意味で、現在日本は大きな岐路にたっているといえるでしょう。

### ◆Profile つつみみか

国際ジャーナリスト。ニューヨーク市立大学大学院卒業。「報道が教えてくれないアメリカ弱者革命」(海鳴社)で黒田清・日本ジャーナリスト会議新人賞。「ルポ 貧困大国アメリカ」(岩波新書)でエッセイストクラブ賞、新書大賞受賞。同シリーズは海外でも翻訳されベストセラーに。『沈みゆく大国アメリカ』、『沈みゆく大国 アメリカ (逃げ切れ! 日本の医療)』(ともに集英社)など著書多数。

### ◆社会に目を向け始めた私たち

安保法制はクラスでも話題になりました。ある男の子が(冗談だと思いますが)「自衛隊に就職するか」「みたいな話をしたら、それを聞いていた女の子が「戦争に行かないやいけなくなるかもしれないよ」と答えたんです。その女の子は以前はそういう話をするタイプではなかったんです。やはり、みんな社会のことが気になりました。しているのかなと感じました。

### ◆自分の意思をもって行動するために

その一方で、私たちが「ダツ!ダツ!脱・原発の歌」や安倍政権を批判する「おじいさんと同じ」などのメ

2年生の夏に修学旅行で沖縄に行ったとき、「ひめゆり学徒隊」の資料館で、沖縄に上陸したアメリカ兵の攻撃から逃げたいたある姉妹が別れ別れになってしまったという日記を読みました。体が動かなくなったお姉さんが妹を巻き添えにしたくなくて、妹だけ逃がしたそうです。私にも妹がいます。そのお姉さんと私が同じ立場になることは、想像もしたくありません。戦争は絶対にあつてはいけないもの。怖いもの、という思いしかないですね。

### ◆Profile のみやま・あんり

1997年生まれ。2013年10月から制服向上委員会のメンバーとなる。趣味は百人一首、テニス。特技は絵を描くこと。\*「制服向上委員会」は1992年結成。今年で24年目を迎えたアイドルグループ。活動のモットーは「清く正しく美しく」。社会派アイドルとしてイラク戦争反対やいじめ問題、環境問題、原発などさまざまな社会問題でメッセージを発信している。

大事なのは、「子どもでも社会のことを考えて当たり前」という環境づくりではないでしょうか。来年度に入れたら、興味のある被服系の勉強をしながら、こうした問題をいろんな人と話し合ってみたいと思っています。

# 15秋・厚生労働省交渉

## 地方の医療守れ、薬剤師確保を

15年秋の厚生労働省交渉は、12月9日に開催し、15県31名が参加しました。今回の要請では、新たに薬剤師確保問題をとり上げたこと、看護委員会の前日に設定したことから、北海道・福島・長野・広島・愛媛の薬剤師4名の他、中執・看護委員以外の看護師も現場から多数参加しました。

要請の柱は4本で、①へき地や地方都市の地域医療を担う厚生連での医師確保、②看護職員など医療従事者の労働条件改善と法的規制、③薬剤師確保問題、④介護職員の処遇改善と人材確保について、厚生労働省の考え方を質すとともに現場の実態を訴え、抜本的な改善を求めました。

### 介護現場の実態認識に驚き



看護師、薬剤師など31名が参加

担当部局の都合で最初に介護問題でやり取りすることになりましたが、介護現場の実

態認識について、老健局に質したところ、「月1・2万円の処遇改善加算等により、介護保険をより安定的に持続可能で利用者のニーズに応じたサービスが提供できるよう運営されてきている」との回答。事業所の相次ぐ倒産についても「事業所数自体は増えている」との回答で、低賃金・過重労働で離職者が増え、施設にベッドはあっても開設できない状況にあるなど、マスコミでも報道されている介護崩壊の実態を踏まえていない担当者の認識に、交渉団は驚きを隠せませんでした。全厚労からは、「全くの認識違いではないか。きつちりと実態調査をやってもらいたい」と強く要請しました。

2つ目の「へき地・地方都市での医師確保や医療提供対策」について、医政局は「厚生連の役割は大変重要だと認識している。6月に出た機能別必要病床数の推計値は、内閣府が一定の仮定の下で機械的当てはめを行ったもので、あくまでも参考値であり、強制するものでも、その数字に縛られるものでもない旨、追って通知を出した。病床削減が目的ではなく、地域の実情を踏まえて、自主的な取り組みとして県の調整会議でやって頂くこと」と回答。また医師確保について、「医学部定員は地域枠も含めて増員されている。また地域医療支援センターを設置し、医師確保のコントリールセンターとして基金の活用やキャリア形成にあたってもらっている」と話しました。

交渉団からは「地域支援の状況が見えない」「地方都市部でも医師偏在があり、確保が困難」「遠軽では産科医師が派遣できずに、妊娠・出産ができない状況に。助産師の雇用問題も起きている」など

### 地方都市に医師がいない

と、人口の少ない都市・地域に集中している厚生連病院の実情を訴えて、重点的な対策を求めました。

### 働き続けられる職場へ多様な対策を求める

「腰痛」対策については、「介護」職場にはリフトへの助成があるが医療・看護職場には適用されないとの回答。しかし雇用保険から助成制度だと適用を広げてほしい」と要望しました。

「特定行為」問題については、厚労省は「在宅医療の広がりの中で看護師の特定行為実施は必要になってきている。但し強行はしない」と答えましたが、参加した看護師からは「特定行為は看護師がすべき業務ではない。それに国民は本当に看護師が行うことを望んでいるのか?」と問い質しました。

「5局長」「6局長」通知の推進について、厚労省は「改正医療法による医療機関の勤務環境改善マネジメントシステム」の導入義務に則って、事業者向けのセミナー開催や、ウェブサイトに「いきサポ」などの周知を行っている。41県に『医療勤務環境改善支援センター』が設置され、取り組みを進めている」としました。

また7対1入院基本料の厳格化や夜勤時間要件緩和などの問題については、「中医協で検討中」との返答に止まりました。「看護基準算定に多くの委員会や研修、残業時間も反映されるもの」との要請事項に、厚労省は「患者の

実際の看護にあたることを前提にして、所定労働時間で申請するが休憩・食事時間も含める扱いにしている」と回答。交渉団は「ベッドサイドケアだけが業務でもなく、看護業務は多岐に渡る。休憩がカウントされて残業がカウントされないのは矛盾。多くの委員会、研修も看護の質向上や医療安全に資するものとして考えられないか」と訴えましたが、担当官は「矛盾はあるが申請の簡便化のため、そうしている」と従来通りの回答でした。

交渉団は、「年休取得のことも含めて、少ない人数で看護基準を取得しようとする傾向が強い実態にある。厚労省の目指す『年間労働1800時間』を達成するには、年休も消化しなければならぬ。離職防止に実効のある対策を進めてほしい」と訴えました。

### 地方の病院薬剤師確保は喫緊の問題

病院薬剤師問題では、担当官は、「薬剤師配置基準は、施設基準として必要な最低基準として設けているもの。業務実施加算などで手当している。また基金で地域包括ケアシステム構築における薬剤師確保対策にも対応している」と答えた。

全厚労からは、薬剤師養成の6年制化とそれに伴って、奨学金返済が高み、多くの薬剤師が当初の給与が高い調剤薬局に流れてしまっていることとや学生実習で病院と調剤薬

病院薬剤師の実態訴える



局の両方を経験してしまうと、業務の多忙さに実習生は病院を敬遠してしまう実態などを訴えました。また「業務加算では都市部の大病院などで取りたくても取れる体制がない。加算ではますます薬剤師不足に拍車がかかってしまっている」と訴えました。最後に全厚労で取り組んだ「薬剤師の実態調査」資料を厚労省に手渡し、実態を踏まえた対策を求めました。

### 厚生労働省交渉参加者の感想から

#### 薬剤師の現状を知ってもらう一歩に

北厚労 中嶋 由美

12月8日、厚生労働省交渉にはじめて参加させていただきました。交渉当日に、事前打ち合わせがあり要求項目の内容と発言者の確認が行われました。打ち合わせの中で、今回は薬剤師確保問題について現

場の声を伝えるために4名の薬剤師が発言することになりました。交渉は、全厚労の要請書から厚労省の担当者が回答し、こちらが発言する流れで始まりました。私は看護師なので看護に関することと、印象に残った薬剤師問題について感想を述べます。看護師では、「特定行為」「夜勤72時間要件」など、全厚労だけの意見を述べていたように感じました。特に、「夜勤72時間要件」では看護協会も全厚労と同じ方針です。現状を相手に伝える時は、自分の所属する組合の考えだけではなく、他の看護師の団体の意見も加えて伝えることでより説得力があると感じました。

現在の薬剤師の現状について、知らない方も居ると思いますので、私の働く白河厚生病院の薬剤科の状況をお話したいと思います。当院は、病床数471床に薬剤師は14名で行っています。多く感じる方もいるとは思いますが、人数は少なく夜勤体制もとれていません。さらに薬剤師の業務の種類、質、量は激変し病院薬剤管理業務、化学療法業務など様々な専門的知識を問われるようになってきました。今回、当院では病院機能評価を受け厳しい指摘もありました。一概に薬剤師が不足しているのが原因ではないのかもしれないがやはり大きな問題は病院薬剤師の不足だと思っています。病院としても説明会などに参加していますが、なかなか興味を持ってくれない学生さんは少なく、さらに国家試験合格率も低下し内定をもらっても国家試験が不合格という学生さんいます。病院薬剤師ではなく調剤薬局やドラッグストアなどの就職率が高く病院薬剤師に就職する方は全体の30%以下になっている状況です。

今回の厚労省交渉の回答では、病院薬剤師は不足しているとは思っていないということでした。厚労省は、地方や僻地の薬剤師の現状を理解していないのが現状です。ですが、今回の交渉で薬剤師確保問題に対するきつかけをつくれたのは確かです。これからも、交渉は続けていかなければならないし、現状を今以上に知ってもらわなければならぬと思います。

#### 厳しい病院薬剤師の実態伝える

福厚労 上釜 宝志

今回初めて厚生労働省交渉に参加し、薬剤師確保問題を要請する機会に参加させていただきました。今回もいい経験になりました。

今回の厚労省交渉の回答では、病院薬剤師は不足しているとは思っていないということでした。厚労省は、地方や僻地の薬剤師の現状を理解していないのが現状です。ですが、今回の交渉で薬剤師確保問題に対するきつかけをつくれたのは確かです。これからも、交渉は続けていかなければならないし、現状を今以上に知ってもらわなければならぬと思います。



# 頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。  
第104回は埼玉と香川をお願いします。



埼玉 山田弥矢子さん

熊谷総合病院、看護師5年目の山田弥矢子(みやこ)と申します。支部執行委員として組合活動に関わり3年目、全厚労青年委員としては2年目になり、今期からは医労連青年委員も務めさせて頂くことになりました。現在埼玉では青年部を設立させようと熊谷・久喜9人を中心に定期的に会議を開き計画を練っているところです(^.^)次回K's stationは埼玉が開催地ということにより一層青年部設立に熱をあげています。みなさんにK's stationを楽しんで頂けるよう現地実行委員、全厚労青年委員、力を合わせ一杯頑張りますのでたくさんの方のご参加お待ちしております♡埼玉はあの有名なアニメの舞台となっていたり隠れた魅力がたっぷりあります。「だ埼玉」とは言わせません! それでは2016年、埼玉でお待ちしています\(^o^)/



香川 川崎隆子さん

香厚労からは書記次長の川崎隆子(かわさきたかこ)さんをご紹介します。現在、透析部門で腕をふるう川崎さんは頼りがいのあるお姉さんのような存在で、組合でもみんなのお世話を引き受けてくれています。いつも笑顔で優しく患者さんにも私たちスタッフにも接してくれる大きな方です。香厚労を引っ張ってくれていて本当に尊敬しています。私生活では優しい旦那さんとかわいい2人の子どもさん、そして3匹のわんちゃんのお母さんで、お料理お掃除大好きというとても女性らしい方です。全厚労では今年度から女性委員として活躍しています。みなさん見かけたらお気軽に声をかけてください! それではご本人から一言、どうぞ☆——書記次長と言っても、まだまだ勉強不足で手探り状態ですが私に出来ることを頑張っていこうと思っております。香厚労の皆さま、全厚労の皆さまよろしくお願ひいたします。

## 読者の声

退院アンケートに家族の方が「看護師さんの増員を望みます」と記入されていました。忙しくてきつくと嫌な思いをされた場面があったのかと反省しました。「疲れた体とよんだ心から良い看護はうまれない」確かにそうです。

(秋田)

——本当は患者さん一人ひとりにゆとり接していきたいのに、それができない現状……。とてもどこかしいですね。各職場で改善できる事も限られてき

ています。早急に増員が必要ですね。その為にも今年度が最終年の増員署名頑張ろう!! (SN)

(富山)

もう定年を迎えますがあらためて全厚労ニュースに興味があります。組合員一人ひとりが権利意識をもち働きづけてもらいたいと思います。

(岡山)

——長年、地域医療を守り続けていただきお疲れ様でした。激励のお言葉もありがとございます。

(OH)

全厚労ニュースいつも楽し

みに読んでいます。記念講演、銀座のパレード、みんな頑張っているんだと勇気がわいてきます。「コンパッション」思いやり「一つ覚え」ました。夜勤をするこの言葉が身にしみます。

(福島)

——いつもご覧くださりありがとうございます。より内容が充実するよう今後も頑張ります。これから夜勤には厳しい季節になります。ご自愛ください。

(YN)

年々医療情勢が厳しくなりますが、少しでも患者さんに満足・納得がいく医療が受け

(岐阜)

られるよう皆で日々精進しています。

(長野)

——お疲れ様です。診療報酬は下がっても、サービスは下げられないのが医療ですね。働く仲間も満足・納得がいく医療ができるよう、日々精進! (KT)

(長野)

「連帯」の重要性を把握して、よりよい看護を実践したいと思えます。

(NK)

——労組活動の「連帯」が病院の仲間を増やし、より良い看護にも必ずつながる。労組活動のいいところですね。

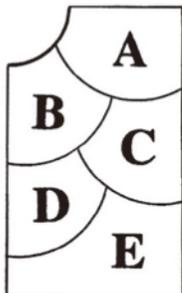
## モンキー・ウォッチング

20か所の間違い探し

【作/モロズミ勝】

### 問題

◆ 左右が逆の2枚のイラスト。よく見ると間違いだらけ。違っている箇所が、一番多いブロックはA～Eのどれが正解かな?



当選者(読者の声掲載者含む)20名様(※新春パズル対応)に図書(クオ)カードを差し上げます。答えと本紙の感想などを添えて下記まで先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。(10月号の答え:ピノコジーン)